

## ファイナルレポート

第 24 回 国際コンポーネント・システム・アプリケーション専門見本市

2010 年 11 月 9 日～12 日

ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場

2010 年 11 月 12 日

～「エネルギー効率」、「再生可能エネルギー」、「医療技術」、「エレクトロモビリティ」が  
今後数年のエレクトロニクス業界成長の原動力に～

### Summary

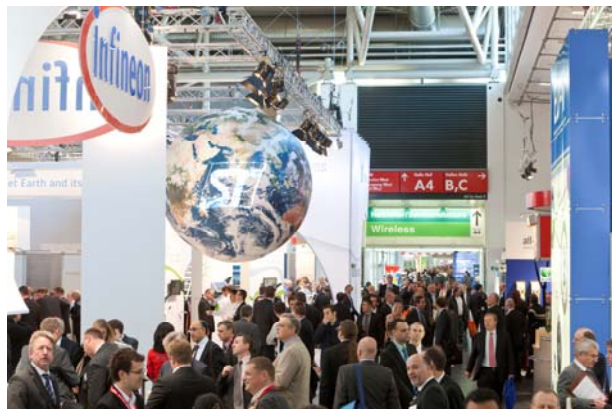
- およそ 2,600 社が出展
- 出展社の 59%がドイツ国外から
- モビリティの未来がテーマ：electronica automotive conference
- 再生可能エネルギー、太陽光発電、医療用エレクトロニクスが注目トピックス
- イタリア、フランス、USA、中国、韓国から来場者が特に増加



### Facts & Data

会 期	2010 年 11 月 9 日(火)～12 日(金) 9 日(火)～11 日(木) 午前 9 時～午後 6 時 12 日(金) 午前 9 時～午後 5 時
会 場	ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場
主 催	ミュンヘン見本市会社 (Messe München GmbH)
規 模	全 12 ホール 約 142,000 m <sup>2</sup>
出 展 企 業	45 ヶ国から 2,595 社 (2008 年: 46 ヶ国から 2,797 社)
来 場 者 総 数	115 ヶ国から 70,000 人以上 (2008 年: 113 ヶ国から 72,970 人)
専 門 分 野	エレクトロニクス、電子工学
主 な 出 展 品	半導体、エンベデッドシステム、ディスプレイ、マイクロナノ・システム (MEMS、マイクロ製造)、センサー技術、検査・測定技術、電子設計 (ED/EDA)、受動部品、電気機械技術/システム/周辺機器 (スイッチ & キーボード、配線部品/システム、ケーシング技術)、パワーサプライ、プリント基板・その他回路基材、受託製造サービス (EMS)、アセンブリ/サブシステム、オートモーティブ・エレクトロニクス、ワイヤレス技術、情報収集システム  業界: 産業電子機器、オートモーティブ、鉄道技術電子機器、通信 (有線)、無線、家電・娯楽製品、その他民需向け電子機器、事務・情報処理機器、医療電子技術、航空・宇宙・軍事向け電子機器
専 用 U R L	<a href="http://www.electronica.de">www.electronica.de</a> (英語 / ドイツ語)

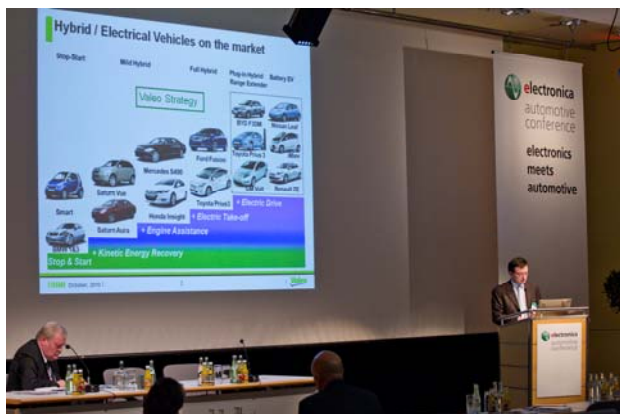
11月9日から12日まで、ドイツ・新ミュンヘン国際見本市会場で **electronica 2010** が開催され、今回も 70,000 人を超える業界関係者が来場。4 日間の会期中、2,595 社が最新技術やソリューション、サービスを紹介した。出展社の 59%(\*)、来場者の 47% がドイツ国外からの参加で、今回も国際色豊かな見本市となり、業界のリーディングメッセとしての地位を裏付けた。また **automotive conference** を始めとする様々な高い会議プログラムも開催され、来場者から高い評価を受けた。



24 回目を迎えた **electronica** には、45 ヶ国の出展社が最新技術を持って集まった。このことから **electronica** がエレクトロニクス業界の国際的なミーティングポイントとしての役割をさらに強めたと言える。会場内はここ数ヶ月の好転を反映した活気ある商談の場となり、出展社の多くは、今後業界全体の成長が安定し、革新的な未来の技術が牽引していくと予測している。

### モビリティの未来 - **electronica automotive conference** にて

11月8日、9日の2日間に渡って開催された **electronica automotive conference** は、23 ヶ国から 323 人が参加し、今回も大盛況だった。コンファレンスの他、出展エリアでもオートモーティブとエレクトロモビリティ分野は最も重要なトピックスとなった。出展社のうち 1,281 社がオートモーティブ関連の技術やサービスを、そのうち 559 社はエレクトロモビリティ関連も紹介した。パワーエレクトロニクスや、電動スクーター、電気自動車のために充電所など、電気車両用の部品やシステムが多く出展された。出展エリアで注目された、車両安全、エネルギー効率と持続性といったトピックスは、会議でも多く取り上げられた。その他、車両の軽量化や制御に関わる省エネ部品やシステムも注目された。



### ますます重要性を増す太陽電池と再生可能エネルギー

太陽電池関連のエリアには、今回は 518 社が太陽光発電システムの管理・監視のための電子製品を紹介した。会場では、再生可能エネルギー関連も徐々に重要性が増しており、風力発電や太陽熱発電所からの蓄電技術やパワーエレクトロニクス用部品、設備や工業用アプリケーションのためのインバーターなどを紹介する出展社が多く見られた。

### 医療用エレクトロニクスの進歩で、より質の高い生活を

医療技術用のエレクトロニクス・アプリケーションは 1,156 の出展社ブースで紹介され、多くの革新的技術が注目を集めた。知的人工装具、血糖検査機やパルスメーターなどの携帯用医療機器、埋め込み可能な血圧センサーや心臓ペースメーカーの遠隔監視・コントロールシステムといった最新世代の医療機器に使われる電子部品が紹介された。医療分野におけるエレクトロニクスのますますの発展は、今後多くの人の生活の質向上に貢献すると期待されている。



## electronica 2010 を支える様々なプログラム

electronica automotive conference の他、Wireless Congress 2010 や CARTS Europe 2010 といった様々な会議プログラムも開催され、あわせて 237 もの講演が行われた。ハイライトの一つは CEO Round Table で、Infineon Technologies、Freescale Semiconductor、STMicroelectronics、そして NXP Semiconductors の CEO が 2008 年から 2009 年の経済危機について、特に「危機から何を学んだのか」をテーマに、その背景と半導体業界が受けた影響について議論を交わした。その中で、半導体業界の特に大手企業はより、良い状態で危機から脱するために、その間は意図的に研究開発に投資したと、合意した。また、ここ数ヶ月の急速な好転により、現在納品が遅れているという課題についても話し合われた。今後このような事態を避けるためにはメーカーと顧客のより密接な関係により、より早い段階でニーズを見極める必要があるとまとめた。



## 来場者・出展社の高い満足度

来場者からは、出展製品やサービスが業界を網羅していること、出展社の国際色が豊かなこと、そして electronica が業界をリードする役割を担っている事に対して、高い評価を受けた。

出展社の 97% が electronica 2010 を非常に良いまたは良いと評価しており、79% が 2012 年の出展に前向きである。また、来場者は 115 ヶ国からあったが、特にイタリア、フランス、USA、中国そして韓国からの来場者が増えた。



次回 electronica 2012 は、2012 年 11 月 13 日～16 日に新ミュンヘン国際見本市会場で開催される。

(\*) 日系企業でも、ドイツ支社からの登録であれば、ドイツ企業としてカウントされます

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ [www.electronica.de](http://www.electronica.de) まで。

## electronica 2010 主な日系出展社(50 音順)

(株)アイベックス、アルプス電気(株)、アナセム(株)、アンリツ(株)、旭化成エレクトロニクス(株)、(株)五十嵐電機製作所、石塚電子(株)、伊藤忠システック(株)、ウチヤ・サーモスタット(株)、NECTーキン(株)、(株)エスエムアイ、エスペック(株)、エプソントヨコム(株)、(株)オサダ、オムロン(株)、(株)オルタステクノロジー、釜屋電機(株)、ケル(株)、コーセル(株)、コア(株)、菊水電子工業(株)、北川工業(株)、九州電通(株)、京セラ(株)、グラフィック(株)、(株)サーキットデザイン、栄通信工業(株)、サガミエレク(株)、三洋電気(株)、サン電子工業(株)、サンユー工業(株)、シチズン電子(株)、シチズン・システムズ(株)、シチズンファインテックミヨタ(株)、(株)芝浦電子、シャープ(株)、新光電子(株)、新電機材(株)、新電元工業(株)、新日本無線(株)、進工業(株)、スタンレー電気(株)、スミダコーポレーション(株)、セイコーエプソン(株)、セイコーインスツル(株)、星和電機(株)、双信電機(株)、ソニー(株)、(株)大真空、太陽誘電(株)、タカヤ(株)、立山科学工業(株)、(株)タムラ製作所、TDK-EPC(株)、TDK ラムダ(株)、東京電波(株)、東光(株)、(株)東北クリスタル、トレックス・セミコンダクター(株)、(株)東芝、電波新聞社、日亜化学工業(株)、(株)ニコン、ニチコン(株)、(株)ニッポンインダストリーズ、日本開閉器工業(株)、日本ケミコン(株)、日本セラミック(株)、日本電産コパル電子(株)、日本電波工業(株)、日本マルコ(株)、宝商(株)、フィガロ技研(株)、富士高分子工業(株)、富士通コンポーネント(株)、富士通セミコンダクター(株)、パナソニック(株)、パナソニック電工(株)、浜松ホトニクス(株)、(株)日置電機(株)、ビシエイジャパン、(株)日立製作所、(株)日立ハイテクノロジーズ、ヒロセ電機(株)、(株)ベルニクス、宝商(株)、北海道大学 産学連携本部、ホシデン(株)、(株)MARUWA、マルチ計測機器(株)、三菱電機(株)、三菱マテリアル(株)、ミツミ電機(株)、(株)ミットヨ、(株)村田製作所、(有)メガテック、安川コントロール(株)、山一電機(株)、横河メータ&インスツルメンツ、(株)リコー、(株)ルネサス エレクトロニクス(株)、ルビコン(株)、ローム(株) など

資料請求、出展申込み、入場券購入、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 E-mail: [info@messe-muenchen.jp](mailto:info@messe-muenchen.jp)

URL: [www.messe-muenchen.jp](http://www.messe-muenchen.jp) (日本語) [www.messe-muenchen.com](http://www.messe-muenchen.com) (英語/ドイツ語)